

巻頭エッセイ

“ボルネオの猿”



井原 浩

ヤンマー株式会社 特機エンジン事業部 執行役員

最近よく“予知”という言葉を目にする。“危険予知”“予知技術”とか。我々エンジンメーカーであれば“故障予知診断技術”と言ったところですか。結果が出る前に予測できたり、台風や地震などの自然災害にも、予知技術がもっと上がればどんなに社会貢献出来るだろうか。

ボルネオの猿。非常に手が長く、足が短く保護動物として守られているようです。昔々は、普通の猿であった。しかし、ある日グループの中に少し知能指数の高い一匹の猿が誕生し、安定に豊かな餌を取る方法を考え出した。彼は、高い木に登り、地上を走り回る事無しに、日々、高い木の上で手だけを伸ばして餌を取る方法を考え出した。他の集団も彼を真似て、高い木の上で豊かで平和な日々を過ごした。そして、長い年月が過ぎボルネオの猿は、グングン手が長くなっていったとの事です。

しかし、ある日大きな地殻変動が起こり、大きな豊かな森林は破壊され、猿たちは地上での生活を余儀なくされた。しかし、長くなりすぎた手が邪魔をし走る事もままならず、地上の動物の餌食になり絶滅寸前になっているという話しです。

ボルネオの猿が物語っている事は。常に、危機意識を持っていなければ“何が起こるか分からない。何が起これば消滅に向かう事を。”だと思います。

我々メーカーとしての安全管理の世界に“ハインリッヒの法則”という考え方があります。一つの重大事故の陰には29の小さな事故があり300の細かな事故があるという法則です。重大な事故は突如起こるわけではない。随伴する多数の原因を細めに予知する必要性を言っている。やはり予知技術能力を磨く事は、重要だ。

市場を取り巻く環境が、需要の減少、グローバルな環境での企業間競争の激化、低収益傾向、流通の変化等々激しく変化している中、ポケットとしている

企業など、どこにもいないと思っている。が、やっぱり身近なところにいるようです。テレビ報道、新聞記事、身近な生活の中にもいるようです。例えば、“問題をいちいち突いたら困る人がたくさん出る。手繰ってゆけば上層部にも至る。余計な事はしないほうが身のためだ。”“何を改革する必要があるのか、長くやってきた。今がいい。”“あと、一年で定年だ。”等々。新幹線の中でも、空港口ビーでも、海外のホテルでも危機管理意識が低いのがこの国の特徴の様だ。

イギリスのある会社は、テロに備え別の場所に予備オフィスを持っているという。万が一爆弾テロで本社のビルが使えなくなったら、普通は倉庫として使っているスペースに会社の中核を移すそうです。そのため倉庫と言えどもオフィス用の電源やネットワーク回線もきちんと整備されているという。(超会社力：長谷川和広著より) そこまでやるかと正直思う。

欧米では、リスクオフセット（危険の相殺）計画のない会社は信用を失い、市場から締め出されている。金融庁も上場企業に対して、2004年3月期から、業績に与える恐れのあるリスク情報を有価証券報告書に記載する事を義務づけている。

不確定要素、リスクをどのように予知、予測するか。リスクオフセット考え方を磨くため、会社人としても、個人としても、ボルネオの猿にならないよう、危機管理意識を持ち日々精進したいと思っています。

最後になりますが、平成16年6月14日に開催されました、第43回通常総会におきまして、前ヤンマー(株)安藤副社長にかわり、社団法人作業船協会の理事に選出されました。大変な重責を荷っていると痛感しております。今後とも会員皆様方のご協力をお願い申し上げます。